**福祉事業所のBCPとBCM　第３回「目標設定」01191003whj**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| シート＃ | シートタイトル | 小見出し | 要点　「」はテロップ |
| P1右下 | 既存の防災との大きな違い |  | 防災は、火災の避難、安否確認など、主に、起きることへの対処。BCPは、目標を設定する。事業継続計画なので、数日間、数週間、被災しながらどのように事業を継続するのか、経営資源、人や物、「あらゆるものが不足している中で、すべてを同時にすることが難しいので、目標を設定しながら優先をつけて進めていくことが、BCPの特徴になる」。 |
| P2左上 | 目標の設定 |  | いつまでに　＝　目標復旧時間RTO何を　＝　優先業務どの程度　＝　復旧のレベルRLO（100%から考えると何%くらいにするか）再開させるか、目標を設定する。 |
| P2右上 | 目標設定のポイント |  | 主に入所施設を想定して説明する。食事ケアや痰の吸引がある施設の場合です。 |
| 食事の停止 | 本来、食事ケア（提供）をするべき時間から何時間止まるとどういう状況になるのか考えながら、最大許容できる時間を決める。ここでは12時間とし、12時間経つと体力も落ちるし不穏になるのでこの辺が限界と考え、最大許容停止時間を決めた。 |
| 最大許容停止時間よりも前の時間で、これくらいの時間に復旧していると影響も少なくいいなぁという時間に、目標復旧時間を設定する（図では6時間）。 |
| 目標復旧のレベルは、災害時なので通常の食事量よりも少なく、お味噌汁とご飯のみの対応とする復旧レベルを決める。これは当然、入所している利用者によっても変わる。例えば、低栄養状態や糖尿病のある方でしたら、もう少しシビアに時間の管理が必要になる。「場合によっては個別の利用者によってこの時間がかわることもある」。 |
| 痰の吸引 | 痰の吸引では、本来吸引をするべきタイミングから10分も経ってしまうと、誤嚥を起こしたり影響が非常に大きいので、この場合には、最大許容停止時間を10分に設定して、目標復旧時間もできるだけ早く（図では3分）設定する。業務によって、再開、目標復旧の時間が違ってくる。 |
| P2左下 | 目標の決め方 |  | 現場で行っている事業において、重要な業務を決めて、優先をつける。今回は入所施設を対象とした業務の優先を説明するが、法人全体でBCPを策定する場合には、法人傘下の入所、通所、訪問など、事業についても優先を決めることを行う。 |
| P2右下 | 時間軸での影響度による目標設定の例 |  | ビジネスインパクト分析を具体的にやってみる。時間軸での影響度による目標設定の例になる。縦軸に、入所施設で必要な業務を具体的に書いていく。痰の吸引、在宅酸素を利用している方がいたらここにも項目として入れる。細かく言うと、着替えも通常時と失禁時の着替えと2種類あったりする。服薬についても必ず服用しなくてはいけなくてはいけない薬や、少しとばしてしまっても大丈夫な薬もある。「業務によってもいくつか重要度が違うこともある」。本来は、そういうものも細かく書いていけるといいと思う。 |
|  | 横軸は、停止の時間。この表では2日まで書いているが、実際のケアが提供できなかった時間がどれだけ経過したかということを示している。事業所によって業務も異なり、この表は2日までとなっているが、本来は、1週間、2週間、1か月と並べて続けて進めていく。 |
| P3左上 | 時間軸での影響度と目標復旧時間 |  | 目標設定の表に、業務の影響度を○△×で評価していく。表の作成は、「防災担当者一人がやるのではなく、BCPの策定メンバーがいたら、できるだけ多くの方でやる」ようにしていただきたい。なぜなら、ケア担当か看護担当かで視点が違うので、できるだけ多くの方に関わっていただき、妥当な評価をしていただきたい。 |
|  | 今回の例では、痰の吸引、在宅酸素は、医療的ケアで、停止が30分でも1時間でも影響が大きいので、すべて×にしている。水分補給は、特に夏場では1時間でも影響がでてくるので△、3時間では脱水の方もでてくるので×としている。食事、排せつ、着替えについても、○△×のタイミングを話し合って評価していく。着替えも通常時と失禁時と2種類ある場合には、失禁した状態を放置しておくと感染症などの問題が出るので、評価が変わってくると思う。 |
|  | ○△×の評価をした後で、右の目標復旧時間と最大許容停止時間を書く。最初に×になった時間を最大許容停止時間に入れ、△になる時間を目標復旧時間に記入する。 |
| P3右上 | 目標のレベルを決める |  | ビジネスインパクト分析で目標復旧時間がおおよそつけられたら、次に目標のレベルを決める。先ほどのビジネスインパクト分析の表を、特に再開が必要なもの、優先が高いものから順番に並べた。職員が何人いるのか、何割いるのかによって、対応が変わってくるので、レベルを変える。（人手によってレベルを変える。）即時再開業務については、職員が8割でも6割でもできるだけ全職員で対応することをこの例では決めている。水分補給は生命のリスクが非常に高くなるので、通常の3分の2の回数を継続して行う設定にしている。3時間以内の再開を目指す、排せつ・食事介助では、職員の割合により回数を変えている。業務により目標復旧時間の優先はあるが、職員の人数によってできることが限られているので、状況に応じて回数を少し変えてレベル設定する。 |
| P3左下 | 請求等業務も考える |  | 本来は、数週間、数か月のビジネスインパクト分析が必要になる。数か月に及ぶと請求等の業務も考えなくてはいけない。例えば、国保連への請求に関しては2か月遅れで入金されるため、請求が滞ると2か月後の収入も滞る。災害時には、データがなくても直近の請求額を参考にできる概算請求という方法がある。職員に給与が支払われないと生活ができなくなる状況も起こりうるので、給与の支払いについても設定して優先する。 |